

令和 3 年 5 月度情報発信 No. 95

㈱材料・環境研究所 代表取締役 長野 博夫

お世話になっています。

関西地区の大阪、兵庫、京都では、5月31日に終了予定であった緊急事態宣言が6月20日まで延期されることになりました。重症患者用の病床は余剰がなく、本当に緊迫した状況にあります。

会社の業務は通常通り続けていますが、神戸市文化センターで行われる中国語講座はコロナのために中止が続いています。また、英語会話の方は、米人教師の三密対策に対するご努力で、授業中はマスク及びアクリル樹脂のフェースガードを着用して進めています。

今週の情報発信の内容として、下記の特別報告をご報告いたします。

### 特別報告

**ひとつこと (公社)大阪技術振興協会誌 令和3年5月号に掲載  
新型コロナウイルスに対峙して 技術士(金属部門) 長野 博夫**

昨年の2月頃から、新型コロナウイルスの感染者数が増え始めました。年末になるとその数は恐ろしいほど増え始め、死者の数、後遺症の厳しさが分かってきました。目に見えないがゆえに、マスクの着用、三密の回避、外出制限で対処していますが、本当に憂鬱な病気です。感染症の対策として進めているリモート利用の実際をご紹介します。

#### 1) 大学でのリモート講義

広島大学で教官をしていた時に、大阪市立大学の非常勤講師を頼まれて以来、今年で20年目になる。最初に教えた学生は、もう立派な大人になっている。工学部機械科の2年生対象に材料基礎学Ⅱ(選択科目)を1回100分、15回教える。学生の受講申請によってその年の受講人数が決まるが、通常50人前後の多人数が出席する。令和2年の授業(令和2年10月～令和3年2月)はコロナ対策を踏まえてZoom授業を実施することを決心し、前もってZoomプレゼンの勉強をした。

過去令和元年度までは、会社の事務所から大阪市住吉区にある大阪市大まで約1時間かけて電車で通勤した。共著で出版した教科書やPower Pointを使っただけの講義、木々に囲まれたキャンパス雰囲気、図書館でのちょい読みなど、それ相当にこなし、有意義であった。

しかし、新型コロナウイルスの非常事態宣言下の令和2年の秋冬は、会社からのZoom講義となった。リモート授業がこれほど疲れることを想像できていなかった。やってみて初めて分かったことは、学生数が多いので、原則として、学生のマイクやオーディオの使用は禁止にしていたので、授業内容に対する学生の反応を全く知ることができな

った。対面授業であれば板書をしたり、質問しながら学生の間を歩きまわったりして学生の解答を引き出したりして、コミュニケーションが取れた。Zoom 講義では、教師からの一方通行で、講義終了後の疲労も大きかった。

上述したように Zoom 講義を受ける学生も大変だと同情している。ただ救われたのは、2回宿題を課し、大学の Web class に期限つきで提出してもらった。55人の学生のほぼ全員の提出があり、宿題の解答に接して、真剣な学生とのコミュニケーションが幾分図られ、安心した。

## 2) 事務所でのリモートワーク

① 大阪技術振興協会：協会における定期監査、および中間、あるいは随時監査の当事者間での議論、理事会、技術士受験セミナー講師会に Zoom で参加した。この Zoom ワークで苦いミスを経験した。それは、講師会で当方の意見を述べるときに、いくら喋っても発言内容が参加者に届いていなかった。後でわかったことであるが、Zoom 設定でマイク使用のチェックが入っていなかったために音声が出なく、そのまま会議が終了した。

② Skype および Zoom で会社の方々との打合せ：一般的に小人数であるので、データ、あるいは対象物を見ながら話し合えるのは非常に有益である。ただし、実験室などで直かに指導できないのが物足りない。

③ 学会での発表：本当に久しぶりに専門の腐食防食学会の研究発表会に Microsoft Teams で発表した。Teams の公式使用は初めてで、戸惑うところもあった。当日は新型コロナ対策のために毎年行われている交流会が中止になって、大変寂しい感じがした。

## 3) Skype による語学会話

毎週 1 回、中国語の会話授業前に、会場近くの喫茶店で同好の士と宿題の解答合わせをしていた。喫茶店も 3 密対策は十分しているのであるが、コロナに対して 100%安全とは思えないので、茶店の利用を最近やめてしまった。その代わりに、Skype を使って、man-to-man の中国語会話を始めている。中国語が下手なことを恐れず、当事者間で気楽に話せるので重宝している。

今の時代、新型コロナウイルスで大変であるが、できる範囲でコロナ対策を行った上で、前向きな生活をすすめています。一刻も早く収束して安全な社会生活の復元を心から待ち望んでいます。

以上